

小学校におけるキャリア教育カリキュラムの開発

— 夢・希望・憧れの自己イメージの獲得をめざした6年間のカリキュラム構想 —

佐藤隆之¹

係活動や清掃、朝の会などの常時の活動と教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動とを有機的に関連づけ、その中で児童の主体性やコミュニケーション能力を育成することが、小学校キャリア教育の課題の一つ『夢・希望・憧れの自己イメージの獲得』につながると考え、実践をもとにカリキュラムを構想した。

はじめに

今日、子どもたちの進路をめぐる社会環境は大きく変動し、失業率は依然として高く、フリーターも増加傾向にある。また、若者自身の精神的、社会的な自立の遅れからくる様々な問題も表面化してきた。

このような現状の中、生きるための基礎能力を育成し、人生の設計能力を育んでいくための施策として文部科学省から「キャリア教育」推進の指針が示された。

その中で文部科学省は、小学校から高等学校までの発達段階に応じて自己と社会との関係を理解する必要性を強調している。

そこで、本研究では、小学校における教育活動をキャリア教育の視点から見直し、「夢・希望・憧れの自己イメージ獲得」へ向けて必要と思われる力を実践を通して検証しながら、小学校におけるキャリア教育のカリキュラムを構想することとした。

研究の内容

1 キャリア教育とは

(1) キャリア教育の定義

文部科学省は平成16年1月の「キャリア教育推進に関する総合的調査研究協力者会議 報告書」（以下「報告書」）において「キャリア教育」を「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」ととらえ、端的には「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」と定義している。

(2) 小学校キャリア教育

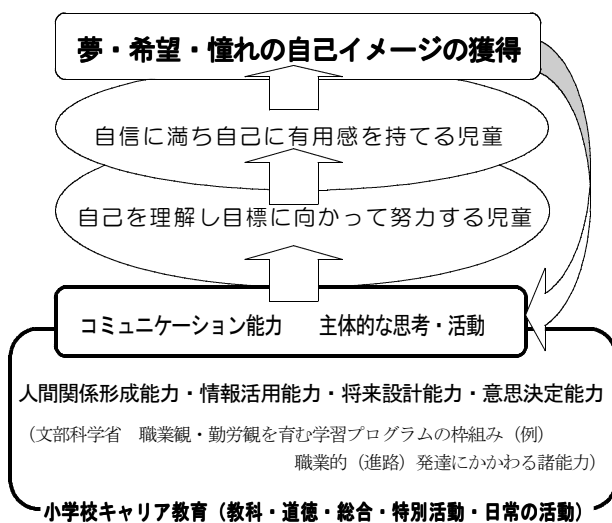
「報告書」には、小学校段階は基盤形成の時期として『夢や希望、憧れる自己イメージの獲得』が職業的（進路）発達課題として取り上げられ、またキャリア

教育の基本方向『一人一人のキャリア発達への支援』として次のように示されている。

子どもたち自身が自己のよさや可能性に気づき、それぞれが夢や希望を持ち、その実現に向けて努力する過程を組織的、継続的に指導・援助していくことが大切である。

また、小学校の教育活動には、生き方の指導や勤労観、職業観の育成等に関わる内容がかなり多く含まれており、それらを有機的に系統化したり、工夫したりすることによって「キャリア教育」として構造化することが可能である。

2 研究の仮説



第1図 研究の仮説構造図

本研究においては、「夢」が膨らみ「自分自身」が大きく成長したときに初めて夢に向かって明確な目標を持ち、夢の実現に向けて自分は何をしたらよいかかわかると考え、そのときを「夢・希望・憧れの自己イメージの獲得」ができた状態ととらえていく。

「夢」を膨らませ「自分自身」を成長させるために必要なことは自己理解である。自己理解を促進していくためには、個々の主体的な思考を大切にするとともに、他とのコミュニケーションを活発に行うことが最

1 大和市立草柳小学校

研修分野（キャリア教育）

も重要であると考え（第1図）、次のような仮説を立てた。

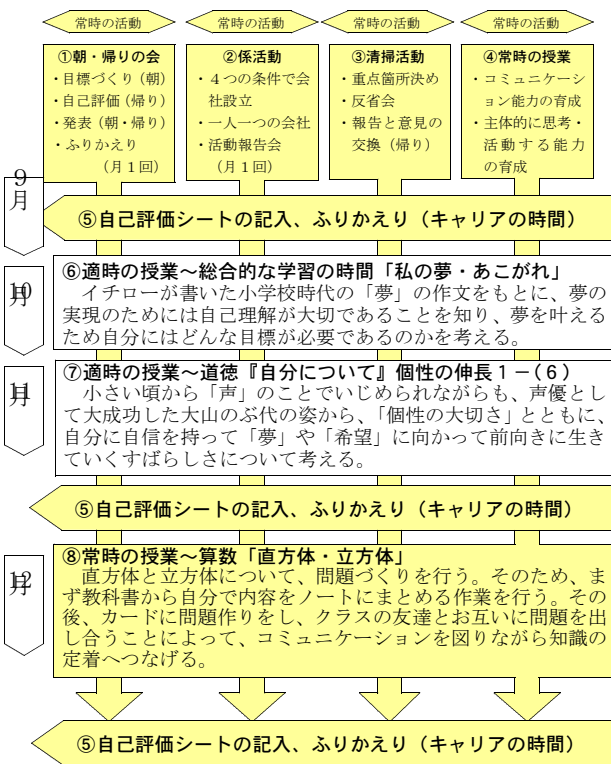
研究の仮説

小学校のキャリア教育において、児童のコミュニケーション能力と、主体的に思考・行動する能力を育てていくことが、児童の「夢・希望・憧れの自己イメージの獲得」へつながっていく。

3 キャリア教育単元の検証実践

キャリア教育では、教育活動を相互の関連性、系統性に留意しながら展開していくことが必要とされる。そこで、今までの教育活動を常時の活動、適時の授業に分類し、相互を有機的に関連させたキャリア教育単元を作成した（第2図）。そして、検証実践を4年生6年生各1学級において3か月間継続して行ったが、本論では6年生（39名）を中心に検証したい。

（6年テーマ）夢 未来



第2図 6年キャリア教育単元 計画案

(1) 常時の活動の工夫改善（4、6年生共通）

常時の活動とは朝の会や係活動、清掃活動などの学校生活の中で毎日継続して行われる活動である。この常時の活動に工夫や改善を加え、コミュニケーション能力と主体性の育成を図り、それを土台としてキャリア教育のめざす豊かな勤労観、職業観の育成に結びつけようと考えた。

【朝の会・帰りの会】

工夫・改善点：一日の目標作り、ふりかえりの場

朝の会に「目標シート」へ一日の目標を記入し、帰

りの会に自己評価をする。また、お互いの目標について語り合い感想やアドバイスを友達から聞けるようにした。（第2図①）

【係活動】

工夫・改善点：一人一つの「会社」を設立する。

児童は①仕事内容がクラスの全員にわかるようにする ②クラスの役に立つ ③仕事に創意工夫を加える ④常に友達の意見や考えを生かす という条件で一人ひとりが「会社」の「社長」となり、自分の作った「会社」を「経営」することにした。（第2図②）

【清掃活動】

工夫・改善点：日ごとに重点箇所を決めて清掃する。

従来の清掃活動とは異なり、担当の児童に自ら清掃箇所や清掃方法、清掃用具などを選択させ、教員は常に清掃活動に創意工夫を加えるよう児童に働きかけた。反省会でのふりかえりは帰りの会で発表し、友達からの感想や意見を求めることとした。（第2図③）

【常時の授業】

工夫・改善点：主体的な活動やコミュニケーション活動を授業に取り入れる。

自学自習によるまとめや問題作りを通して、主体的に思考・活動する能力の育成を図り、クラスの友達とゲーム形式で問題を出し合い、互いにコミュニケーションを楽しみながら学習を進める。（第2図④⑧）

【特別活動～キャリアの時間】

工夫・改善点：月に一度常時の活動をふりかえる。

会社の活動報告会、毎日の目標のふりかえりに加え主体性とコミュニケーション能力に関する22の評価項目で自己評価を行うことにより、児童は自分の中の変化・成長を、教員は児童の個々のキャリア発達を確認する。（第2図⑤）

(2) 適時の授業の実施

「適時」とは児童の実態や社会の動き、出来事などを扱った授業をタイムリーに計画していくといった意味である。適時の授業は教育内容としては夢・希望・憧れを扱うものや勤労観・職業観を育成するものを取り入れ、主体的な思考、活動やコミュニケーション能力の育成を図る教育方法で行った。（第1表、第2図⑥⑦）

第1表 キャリア教育における授業・活動の分類

	内容 (つながり)	具体例
教 育 内 容	夢・希望・憧れといった題材 夢・希望・憧れの自己イメージの獲得	偉人・家族・身近な大人の生き方や 自分の将来を考えるものなど
教 育 方 法	勤労・仕事・職業・社会といった題材 勤労観・職業観 情報活用能力	工場見学・体験学習・地域 家族 環境などに関する学習など
教 育 内 容	コミュニケーションの場をいける授業・活動 (コミュニケーション能力)	グループ学習・話し合い・討論・ゲーム・ 調べ学習・インタビューなど
教 育 方 法	主体的思考・活動する場のある授業・活動 (主体性 意志決定能力)	発表・問題作り・計画作り・調べ学習・ めあて学習など

4 小学校キャリア教育カリキュラム構造図

3か月間の実践の成果と課題をふまえて学校の中で児童が様々な立場や役割を見出し、自ら目標を決め

て計画実行し、自分の夢・希望・憧れに主体的に働きかけるようになることをめざした6年間の具体的なカリキュラムを構想した。(第3図)

夢・希望・憧れの自己イメージの獲得

中学校



適時の授業の()内は文部科学省 職業観・勤労観を育む学習プログラムにおける枠組み(例)職業的(進路)発達に関わる諸能力による。

第3図 小学校キャリア教育カリキュラム 構造図

研究の成果と課題

1 検証実践の成果と課題

3か月間行った検証実践では、まず係活動を工夫・改善した「会社」活動で児童に意欲的な活動が見られた(第2表、第3表)。児童が一人一つの会社を設立したことにより、責任を持って主体的に仕事を行ったからであろう。

常時の活動では、目標や目的意識を持つ大切さを多くの児童が感じ取っている(第3表)。3か月の検証実践を継続した結果、「夢が叶うと思う」児童も増えている(第4図)。

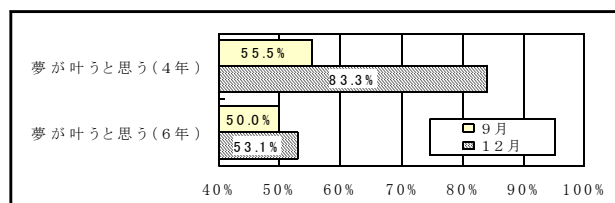
以上の結果から児童が意欲や主体性を高め、目的意識を持って日々の活動を行い、達成感や自信を積み重ねていくことで、少しずつ「夢・希望・憧れの自己イメージ」を獲得できることがわかった。

第2表 「会社」活動のよかった所(6年生 39名)

項目	回答数	割合
好きなことが自由にできた	12/39	32.4%
自分一人でするのがよかった	9/39	23.1%
自分から進んで仕事ができるようになった	5/39	12.8%
自分のやりたい仕事ができる	5/39	12.8%

第3表 常時の活動の感想(6年生 39名)

項目	回答数	割合
目標を持つことは大切だと思うようになった	27/39	73.0%
係から会社活動になって楽しく活動できるようになった	31/39	83.8%
人に言われなくても自分から仕事ができるようになった	20/39	54.1%
目標やポイントを決めたので掃除がやりやすくなった	23/39	62.2%
教室が前よりきれいになった	25/39	67.6%
話し合いながら掃除をするようになった	22/39	59.5%



第4図 児童の夢に対する意識の変容

しかしながら、目標を持つことは大切だと思う児童が増える一方で、まだ6年生の40.5%が「目標作りが面倒くさい」と感じ、「毎日同じ目標になってしまった」という児童も43.2%いる。つまり一人ひとりが十分に自己を理解し、自分に合った明確な目標を立てられるまでには至っていないといえる。

今回のキャリアの時間では、定期的に児童自身が目標作りや常時の活動をふりかえり、目標の大切さを実感することができたが、他にも、目標作りを週単位にしてじっくりと取り組む、各教科や活動毎に目標を立てる、過去と今の自分の目標とを照らし合わせるなど

の工夫や改善の方法が、児童に明確な目標を持たせるためには必要といえるだろう。

研究のまとめ

児童がキャリア教育をとおして自己を理解し、「夢・希望・憧れの自己イメージ」を獲得していくために次の3点が必要であると感じている。

まず、1点目は日々の学校生活の中で自分自身をじっくりと見つめて自己理解を深め、自分に合った等身大の目標やめあてを作ることである。そして、その目標やめあてを達成するために具体的な考えや方策を持って毎日生活していくことが基本となる。

次に、日常の活動の中で培った主体性やコミュニケーション能力の土台の上に、「夢・希望・憧れのイメージ獲得」を促す様々な職業や職業人の情報、知識を適時、意識的に授業に取り入れて、児童に伝えていくことも豊かな職業観の育成には必要なことである。

また、主体性やコミュニケーション能力は簡単に身に付くものでなく「夢・希望・憧れの自己イメージの獲得」には時間がかかることから、キャリア発達につながる教育活動は、継続的かつ見通しを持った系統的な教育計画のもとに行われることが最も大事なことであると考えられる。

おわりに

小学校におけるキャリア教育とは「生きる力の育成」そのものであると感じる。小学校では担任が児童の一日の活動を継続して見守ることができる。しかし、その中で児童一人ひとりの日々の小さな成長やつまづきに気付いているのだろうか、また、個々の児童のささやかな夢や希望やあこがれに気付いているのだろうか。今まさに一つひとつの教育活動の見直しが求められていると思う。児童への声かけでも児童と一緒に清掃の中にも見直しの視点はいくらかでもある。まずは身近なことから始めていきたい。

引用文献

文部科学省 2004 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議 報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～」

参考文献

三村隆男 2004 『図解はじめる小学校キャリア教育』 実業之日本社
 日本進路指導協会 2004 『月刊進路指導 10月号』
 渡辺三枝子 2004 (『悠』9月号) ぎょうせい